



第 18 回 JECKU 五極造船首脳会議について

第 18 回五極造船首脳会議（JECKU）が、2009 年 10 月 28(水)～10 月 30 日(金)の3日間、ドイツ・ベルリン市にて開催され、夫人も含め総勢約 120 名の参加を得た。

本会議(JECKU/TEM)は 10 月 29 日（木）にベルリン市のリッツカールトンホテルにて開催され、日本（J）から元山日本造船工業会会長以下 30 名、欧州（E）からアントニーニ・ユーロヤード会長（JECKU 議長）以下 20 名、中国（C）からリー中国船舶工業行業協会副会長以下 19 名、韓国（K）から崔韓国造船協会会長以下 21 名、米国（U）ハリス・GD ナスコ社長以下 5 名五極造船首脳及び関係者 95 名が出席した。

今回の JECKU は、世界同時不況の影響から海上荷動きが減退し、新造船需要の低迷という厳しい環境下での開催となった。会議では、需給不均衡対策、公平な競争環境の整備、環境に優しい船舶の開発を通じた造船業界の貢献、などが議論された。

当日の議題と議長声明は以下の通り。

1. 欧州議長歓迎挨拶、出席者紹介
2. 基調演説
3. 経済市況動向
4. 船種別市況
5. 造船需給
6. 造船コスト、危機管理
7. 国際協定動向
8. CESS（造船関係専門委員会）会議報告
9. 議長声明・・・次ページ参照
10. 次回 2010JECKU

第 18 回 JECKU 五極造船首脳会議 議長 声 明 (要約)

第 18 回 JECKU 五極造船首脳会議は、ドイツ・ベルリンにて 2009 年 10 月 29 日に開催され、日本、欧州、中国、韓国、米国の主たる造船会社の首脳 95 名が一堂に会した。

今回の会議では、世界経済の環境変化と船種毎の造船市況、並びに将来の造船需要動向について、活発な報告・討議が行われた。

世界の造船業界は、かつてない厳しいビジネス環境に直面し、世界経済の不振ならびに海運・造船の需給不均衡問題に苦しんでいる。そのような現在の状況は、経済危機と金融緩和による投機的な大量発注の結果、もたらされたものといえる。

会議参加者は、今後数年間、経済危機の影響が世界の造船業界に及ぶであろうと見通した。造船業界へのダメージを最小に食い止めるためには、市場原理に基づく慎重かつ規律ある新造船建造能力の調整が必要である。需要の低迷による競争の激化が懸念されるが、会議参加者全員、持続的な経営を維持するための造船所運営に努めるという認識を共有した。

過去最大となる JECKU 出席者は、公平な競争環境整備に向け情報・意見交換を積極的に継続していくことを強調した。

新世代の環境に優しい船舶の開発を通じ、造船業界は温室効果ガスの削減に大いに寄与できるとの見解を共有した。環境に優しい船舶の規準をグローバルに適用可能な形で強化を進めている IMO (国際海事機関) の努力を造船業界は歓迎する。

海上輸送はグローバル化に不可欠であり世界繁栄の鍵である。世界各地に強力な造船業が存在することで、健全な海運業が成り立つ。

会議では、環境に優しく健全な海事活動に貢献する造船業界を維持するための課題の範囲・要求される責任・徹底した方策の必要性につき共通認識を得た。

参加者の協力の継続を決議し、次回 JECKU は中国で 2010 年秋(10 月 27-29 日)に開催する。

(了)